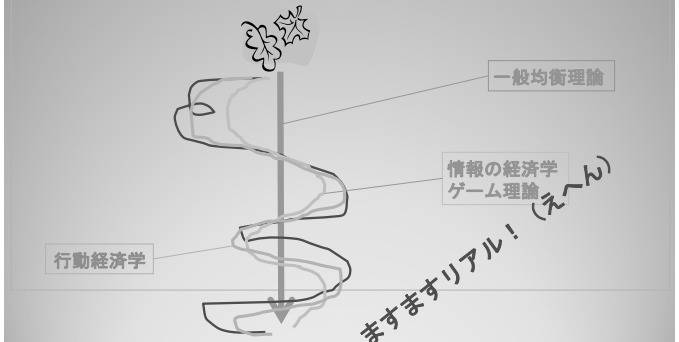
# 闘え！　マルクス！

コメント　其の弐
吉田雅明

- 社会の歴史と現状をどう捉えるか
- 失業：分配と生産の意思決定に関わる現象
  　　ｖｓ．サーチモデルで了解される摩擦現象
- 貿易：中心ー周辺資本主義
  　　ｖｓ．　比較優位の原理
- 「批判的に」見るための「リアリティ」は十分
- でも，その社会がどのような仕組みで動いているのかを体系的にいかに自己了解するのか，という課題は不十分
- 制度化された自己了解の体系そのものと闘うことこそが，思想本来の戦場ではないか

## マルクスが「良く」闘っているもの

- 「現代の経済学」という思想とどう闘うか




## 相手はもちろん経済学だ

- 社会を理解するためのものの考え方の基本設計
- その分析的で整合的な表現手法
- システムの動作メカニズムの解明
- ＋
- 操作性の高いアプリケーションの開発
- データの整備とデータとの接合モデルの開発

## 必要なものは・・・

- 階級闘争の合理的基礎とか
- 最適２部門成長モデルとか
- 価値と価格の架橋とか
- ・・・・・・

- じゃなくて，再生産理論本体が再起動できないと，闘いのリングにすら上がれない

## メインエンジンを復活させよう

- 問題なのは厳密性ではない
- 操作性が悪すぎ
- その再生産システムはどう動くのか
- 人々のどのような行動によって動作するのか
- どのように働きかけることができるのか
- 動作のメカニズムモデルが必要

## 再生産モデルはなぜ不人気なのか

- ルーカス批判をクリアしてマクロ経済学は立場の違いを乗り越えて「科学」になった？
- （断絶を認めない経済学者たちの時代）

- （最適化＋均衡）という思考の重力圏から脱出するためには

- （制約条件下の最適化の意味で）「合理的なもの」として社会を理解する作法をやめよう

- ものわかりがわるくてこそ，マルクス！

## マルクス流のマイクロファウンデーションをみせてやれ

- **「最適化行動から離れた人間行動はいっぱいあるけど，平均的にはOK」？！**

- 視野と推論能力の限界が捨象できないとしたら
- 合理的期待は前提できない
- しかしマクロはミクロの行動を反映する
- するとマクロは均衡モデルで記述できない
- したがって「正しい」経済構造モデルは合理的期待＋一般均衡モデルにはなりえない
- つまり，人々が「合理的」期待によって一般均衡モデルを社会の構造モデルとして採用するのは矛盾する
- 不均衡による「不都合」を無視できるためには，時間の可逆性か，環境の不変性が必要

## 経済学の「理想気体」の犠牲になったもの

- 正の搾取率・・・現実的に妥当な技術的想定
- 部門共通の利潤率・賃金率・・・現実的に妥当でない構成上の想定（cf.産業連関表）

- しかし，最適化行動，市場均衡は不要
- 再生産「過程」を描く上で，可逆的時間想定は不要

けっこうやれるじゃん！

## 再生産モデルが必要とする「理想気体」とは？

- マルクス流の，定型的な
- 　　労働者家計の所得ー消費行動
- 　　資本家の正常利潤率をノルムとした売上反応型生産調整行動
- 　　資本家の設備投資調整行動

- という「マイクロ・ファウンデーション」の上に，定常状態として，各部門が正の利潤率を保ちつつ非縮小再生産する過程を表現する体系を示せばよいのではないか

## 再生産モデル再起動へのプラン

- リアルな行動モデルを許容しつつ，システムの振舞いを表現できる，マルチ・エージェント・ベースのシミュレーション・システム
- (cf.　進化経済学)

- モデルとしての整合性を保持しつつ，大きな自由度を実現する手法採用の必要

## 再生産モデル再起動へのプラン

失礼いたしました